

## 前回会議までの確認事項について

### 1. 小児一次救急医療に関する課題

#### (1) 急患診療センター及び急患診療所における小児患者の増加への対応

- 小児患者が年々増加した結果、患者の待ち時間が長時間化し、急を要する患者への対応に支障が生じることが懸念されるとともに、診療する医師の負担が増大している。
- 核家族化や共働きといった家庭環境の変化により、子どもの病気に対する不安から、不急患者が増加している面があり、子どもが病気になったときの適切な対応など、救急医療に関する知識について、保護者への普及が十分でないと考えられる。

#### (2) 急患診療所に出務する内科・小児科併診医師の確保

- 医科の専門分化が進んでおり、小児科を併科標榜する内科医が高齢化し、数的にも減少しており、急患診療所における出務医師の確保が困難となっている。

#### (3) 一次救急医療体制が手薄となっている時間帯や医療機能への対応

- 土曜日の午後については、急患診療センターが開くまでの時間帯の一次救急医療体制が手薄となっている。
- 骨折などの外科系の小児患者については、救急車での搬送先確保が困難になっており、救急搬送に時間がかかる事例が発生している。

#### (4) 休日の小児科二次病床の確保

- 休日、GW、年末年始において、現在確保している小児科二次病院のベッド数（3施設各1床）を上回る二次搬送が常態化している。

### 2. 対応策について

- 子どもの救急医療に関する情報を、市民に対して広く、より分かりやすく周知を図っていく。とりわけ保護者に対しては、子どもが病気になったときの適切な対応など、救急医療に関する知識について啓発を行っていく。
- 休日の小児科二次病床を増設する。